MOTO CORSE Presents

好きだから、こだわりたい

自分の中で描いた〝カッコいいバイク〟に妥協はできないし、その熱意は誰にも負けない若いからこそ〝夢をカタチにする〟ことに拘った、驚愕のドラッグ・カフェレーサー

PHOTO/K.MASUKAWA　TEXT/K.ITOH
取材協力／モトコルセ　TEL046-220-1711　http://www.motocorse.jp/

「このバイクで海外ツーリングしてみたいですね、キアヌ・リーブスさんと一緒に旅するとか(笑)」。屈託ない笑顔で大きな夢を語るのは川上祐太朗さんだ。

兵庫で生まれ育ち、学生時代はサッカーとラグビーに打ち込んだ。

「その頃も先輩が乗っていたバイクに憧れはあったのですが、お金がないから手が届かない存在。美容師を目指して専門学校に通いましたが、当時は叔父さんの原付スクーターを借りていました。その時も〝バイクって楽しいな〟って思ったんですが、やっぱり手が出なかった」

川上さんは東京で美容師になろうと上京。数年を経て、知人の仕事を手伝うために職を変えて頑張った。

「大型バイクに乗りたかったんです。海外の映画のダークヒーローが乗っているような、タイヤの太いクルーザーがカッコ良いな、って。でも、なぜかハーレーではなかったんです。2年半くらい前のことです」

そしてたまたま立ち寄ったドゥカティ渋谷（現ドゥカティ・ライフスタイル東京）で目にしたXディアベルにひとめ惚れ。バイクの免許は持っていなかったが、自動車学校で大型自動二輪試験想定の練習をした後に、府中の試験場でなんと2回目に合格し、念願のXディアベルSを新車で購入。2018年7月だった。

「じつはドゥカティ渋谷に展示されていたDXC（ディアベルベースのモトコルセのコンプリートマシン）を見て、カーボンや削り出しパーツにもすごく魅力を感じていたし、オーリンズのレーシングフォークとかも凄いな〜って。だからクルーザーで作ったカフェレーサーに乗ってみたいなって。そしてネットとかで色々調べたら見つけちゃったんです。2016年のイタリアのモーターエキスポで発表された、Xディアベルがベースのコンセプトバイク『draXter』。僕のバイク、これにしてください！　って、（モトコルセ代表の）近藤さんにお願いしました」

とはいえdraXterは実走行を無視したまったくのショーモデル。それをモトコルセが川上さんのイメージに最大限に近づけるべく試行錯誤し、およそ2年をかけて形にした。

「まだ完成ではないと思っているんですが、20代のうちにこんなスゴイバイクに乗りたかったんです。同世代の人たちに〝若くてもできるよ〟って言いたかった部分もあるし、自分でも一歩踏み出せたかなって。それにしても、このバイクで街を走ると、モノ凄く視線を感じますね(笑)」

バイクへの熱意を原動力に超プレミアムな「DXD」を手に入れた川上さんなら〝キアヌとのバイク旅〟の夢も叶えられるかもしれない……。

マッシブ×スマート×スポーティ
Xディアベルで“一番”を目指します！
DUCATI XDIAVEL DXD

川上祐太朗さん

1991年生まれの29歳。兵庫で生まれ育ち、美容師の専門学校を卒業後に上京。初バイクがこのディアベルで、2018年8月に入手。DXDを乗りこなす体力と、スマートでマッシブなこのバイクに“似合う男”になるため身体を鍛えた細マッチョ